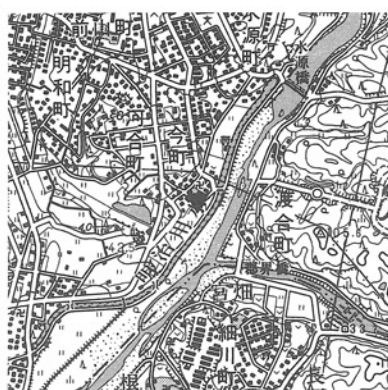


愛知・今町遺跡

いまちよう

- 1 所在地 愛知県豊田市今町八丁目
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18) 四月～六月
- 3 発掘機関 (財)愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 宮腰健司・鈴木正貴・岡久雅浩
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 戦国時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(豊田)

今町遺跡は矢作川の中流域にあり、矢作川西岸に近接する碧海台地南東端部に立地する。付近には旧加茂郡・額田郡・碧海郡を分ける矢作川・巴川・大谷川の合流点があり、遺跡は加茂郡の南東端に位置する。遺跡の北側には戦国時代に創建された常行院が所在する。これまでに一九九八年度と二〇〇〇年度

に第二東名高速道路の橋脚建設予定部分(当時)で発掘調査を行なった。二〇〇六年度調査は第二東名高速道路の調整池建設に伴う事前調査で、二〇〇〇㎡の面積をA区～C区の三区に分けて発掘した。一九九八年度と二〇〇六年度の調査区域では、戦国時代から江戸時代中期までの屋敷が七区画確認されている。屋敷地は溝で囲まれた一辺が二〇m～三〇mの不整形形で、内部に掘立柱建物・井戸・水溜状遺構などが存在する。木簡は、B区の井戸SK三〇〇から一点出土した。共伴の陶磁器などからみて、一七世紀後半のものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・□□ □□

二月□□日

・「老尺□□□□」[右衛門カ]

□□□□ [二月カ] [日カ]

□□□□ [二月カ]

(128)×33×2 019

9 関係文献

日付や数値などが記載されていることから、荷札の可能性がある。
(財)愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター『今町遺跡Ⅱ』(二〇〇九年刊行予定)

(鈴木正貴)



木簡の再検討と地域社会の展開

滋賀県立安土城考古博物館での木簡展示に伴って、展示図録『古代地方木簡の世紀—文字資料から見た古代の近江』（同博物館、二〇〇八年）が刊行された。

西河原地区に展開する古代遺跡を「西河原遺跡群」として捉え直し、詳細な再検討を行なっている。そして、西河原遺跡群は「野洲郡衙もしくは評衙としての役割を担っていたと考えられる」（九一頁）とする。首肯すべき見解であろう。

また、西河原森ノ内遺跡の郡符木簡（二号木簡）は第四遺構面第四段階の溝SD二二〇一からの、条里記載木簡（四号木簡）は同溝西側遺構面からの出土で、条里坪付に関する記載であることから八世紀前半以降のものと考えられる」（八七頁）とする。第四遺構面の年代は七世紀後半から八世紀前半以降と解し得るが、終期を何時とみるかによって、近江における条里呼称の成立などの問題に関わることになる。

木簡は、単独ではなく出土遺跡の理解や、さらに周辺遺跡や出土遺物との総合理解が重要である。西河原遺跡群のような成果は、今後他の遺跡群でも期待できるであろう。

（岩本次郎）